

児童の実態

本学級の児童は、男女関係なく仲が良く、グループ活動でも積極的に交流している様子が見られる。しかし、授業中、話している相手の方を向き、反応しながら話を聞くことが最後までできる児童は少ない。また、進んで対話に臨もうとする児童が多い一方で、役割や話す順番等の条件が与えられた中での話し合いに対して、順序立てて話したり、言葉で思いを伝えたりすることに苦手意識を持っている児童も少なくない。令和3年度の標準学力調査の結果では、『話すこと・聞くこと』の領域において、「話の中心を明確にするための話し手の工夫を捉えている」の出題の正答率は高く、話し手の工夫については気付いているが、「話し手が伝えたいことの中心を捉えている」、「相手に伝わるように、自分の考えを、理由を挙げながら話している」の出題の正答率は先の出題に比べると低い正答率であったことから、相手の話題の中心を理解する力、自分の考えを相手に伝える力に弱さが見られる。

1学期には、『話すこと・聞くこと』の領域において、「この言葉、あなたならどう考える？」の単元にて、文章からイメージする印象を文章に表し、互いの立場を明確にし、考えを広げたりまとめたりする力を養った。その際、考えを広げるためには、相手の考えを最後まで聞くことや、相手の考えに質問することで考えを広げられることを学んだ。また、自分の意見と同じところや違うところに着目することで、互いの考えを広げたりまとめたりすることは少しずつ身に付きつつある。しかし、互いの考えを順序立てて話したり、なぜそう考えたのかの理由を文章等と関連付けたりして話す力にはまだ弱さが見られる。

単元デザイン

本単元の重点指導事項は、学習指導要領における〔思考力、判断力、表現力等〕の「A 話すこと・聞くこと」オ(1)「互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすること」である。この資質・能力を身に付けさせるために重要となるのが、〔知識及び技能〕の(2)ア「原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。」(2)イ「情報と情報との関係付けの仕方・図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。」の2点である。話し合いのテーマとなる問題についてその原因を考えることで、解決方法を考えることができる力を育てられるようにする。また原因や解決方法を考える中で、考えたことを書き出して、線で結んだり囲んだりすることで、関係を図で表す力を身に付けるようにする。

本単元は5時間構成で考えており、第1時では、学級会での話し合い等を想起することで、本単元への意欲付けとする。その際、話し合いで難しかった点について焦点化することで、どの教科・場面でも話し合いの質が向上するための重要点を見つける意識を持てるようにする。第2時では、教科書の例文を基に、上手く進行できていない話し合いの問題点から、本単元のねらいである「計画的に話し合う」「情報と情報との関係について理解し使うこと」の良さについて全員で共有する。第3時では、自分たちの周りの問題点から、話し合いたい課題を考える。複数の意見が想定されるため、それぞれの意見について考えたい児童同士で、均等にグループを分ける。第4時では、各グループで課題に対する原因を考え、それに関する情報も収集することで根拠をもとに話し合い活動ができるように進め、第5時での話し合い活動に繋げて、話し合う際の役割や計画を考える重要性、計画的に話し合いを進行していく技能を体験的に学習できるように設定することで、本単元で身に付けた力が、他の教科等、特に学級活動の話し合い活動に活かされるようにしていきたい。

研究主題に迫る手立て

安心できる学級・学校づくり～生徒指導の三機能を生かし、子どもの主体性を育てる～

- 【自己決定】グループでの話し合いに積極的に参加しやすくするために、複数意見が出た際に自分が選んだ意見毎にグループを編成する。
- 【自己存在感】話し合い活動に計画的かつ円滑に取り組むために、各グループにおける一人ひとりの役割を決めておく。
- 【共感的人間関係】ペアグループの話し合い活動の良さを見つけるために、話し合いを行うグループと観察する兄弟グループに分け、ICTを用いて話し合い活動を観察し、伝え合う。

問題を解決するために話し合おう〈全5時間〉

学習過程	【構造と内容の把握 精査・解釈 考えの形成 共有】	【話題の設定 情報の収集 内容の検討 構成の検討 考えの形成】	【表現 共有】	
学習活動	①学習の見通しを立てる ・今まで学習した話し合い活動について振り返る。 ・学習計画を立てる。	②重要点を見つける（本時） ・前時の振り返りをする。 ・教科書の例文を基に、話し合い活動での重要点を考える。 ・今後の話し合い活動で重要にすべき点を考える。	③話し合う課題を決める ・クラスを良くしていく為に、現状のクラスの課題を考える。 ・どの課題について考えていきたいか、課題ごとにグループを分ける。	④話し合うために準備する ・グループ毎に課題の原因について考える。 ・計画的に話し合うために、役割や時間配分等、話し合いの進め方を考える。
言語活動	クラスをもっとより良くしていくために、どんなときでも使える話し合いの仕方を考えよう。			
思考力	課題に対する原因を明らかにし、それらを基に互いの立場を明確にし、相手の意見を尊重しながら計画的に話し合う。			

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・原因と結果など情報と情報との関係について理解している。【(2)ア】 ・図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。【(2)イ】	・「話すこと・聞くこと」において、意図を明確にしながらか計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。【A(1)オ】	・これまでに学習したことを振り返って学習課題を明確にし、学習の見通しを持って、進んで意図を明確にしながらか考えを広げたりまとめたりして、計画的に話し合おうとしている。

1・2年

互いの意見に関心を持ち、相手の発言を受けて話しをつなぐこと。

3・4年

目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめること。

5・6年

互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすること

単元の目標

【知識及び技能】

・原因と結果など情報と情報との関係について理解することができる。(2)ア
・情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。(2)イ

【思考力、判断力、表現力等】

・互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすることができる。A(1)オ

【学びに向かう力、人間性等】

・言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

本単元終了時の目指す児童像

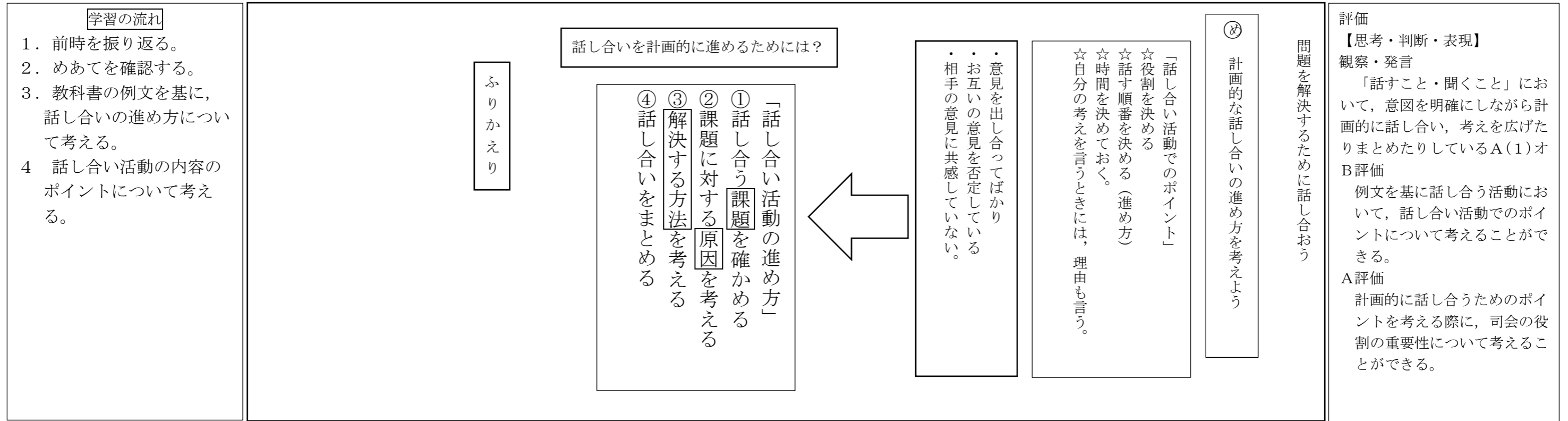
ある課題について、その原因を考察するとともに、自分の考えを分かりやすく相手に伝えるための方法を考え、互いの意図を明確にしながらか計画的に話し合える児童。

中1年

話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめること。

5-1 **本時の目標** 前時の話し合いの映像や、教科書の例文を基に、計画的かつ円滑に話し合いを進める為に必要なことを考えることができる。

本時における見方・考え方 話し合い活動を計画的かつ円滑に進めるために必要なことを、教科書や自分たちの活動を基に考える。



つかむ・見通す

解決活動

まとめ

◆前時を振り返る。
T: 前回の授業で、今回の話し合いはどんなことを話し合ってたか？
C: クラスの課題を解決すること。
T: みんなは、話し合いをする中で難しかったことは何でしたか？
C: まとめ方が難しい。
意見がぶつかってしまったときにどうしていいかわからない。
進めるときに、黙ってしまう時間がある。
※うまくいかなかった点に注目して、本時の内容の意図を確認する。
◆めあてを確認する。

計画的な話し合いの進め方を考えよう！

◆教科書の例文をもとに、話し合いのポイントを考える。
T: この文章の話し合いは、どうでしょうか。
C: 自分の意見ばかり発言している。
相手の意見を否定している。
バラバラにしゃべっている。
※うまくいってない話し合いの文章を提示し、話し合いのポイントを考えやすくする。
T: では、計画的に話し合うためにはどんなことが必要でしょうか？
C: 役割を決めておく。
意見を言う順番や話すことの順番を決めておく。
意見を言うときには、どうしてそう考えたのか理由を言う。
◆計画的に話し合うためのポイントを、例文をもとに考える。
T: この文章の話し合いから、計画的に話し合うためにどんなことに気を付ければよいでしょうか。
C: 話し合うことについて最初に確認する。
課題→原因→解決策の順で話し合うとまとめやすい。

◆本時のまとめをする

計画的に話し合うためには、司会を中心に進め方について話し合っていく。

◆自分たちの話し合い活動に必要なことを振り返る。
T: 今日学習した内容で、今後気を付けていきたい点はどこですか？
C: 司会などの役割を決めておく。
課題に対する原因を考え、自分の意見を準備しておく。
話す話題に沿ったことを発言する。

◆ふりかえり
※前時の話し合いから、本時学んだことを踏まえて、これからの話し合い活動へ向けてどんなことに気を付けていきたいか等を書くよう、助言する。